

全大腸内視鏡検査の実施について

1.検査の目的

R7 年度予算:39,200 千円

大腸がんによる死亡者を減らし、一人でも多くの市民の命を守る！

2.大腸がんの現状

- 本市の4人に1人はがん(悪性新生物)で死亡(R4年 24.8%)しており、死因割合としては最も多い要因となっている。
- 本市における大腸がんによる死亡者数は年間250人を超えており(R4年256人)、がんによる死因の中では、肺がん (R4年410人)に次いで多い。
- 大腸がんは 50 歳から増え始め、55～59歳の年齢層で増加する。
- 大腸がんはポリープからゆっくり成長しがんになるため、早期発見することで治療可能であるが、市の大腸がん検診(便潜血検査)の受診率は 5%程度であり、民間の調査によると、全大腸内視鏡検査の受検歴のない人は 65.7%となっている。

※熊本市の55～59歳の人口は約4万6千人→同年齢層で全大腸内視鏡検査の受検歴がない人の想定数は約 3 万人

3.全大腸内視鏡検査効果

- 全大腸内視鏡検査を1回受けることで、後 10 年間の大腸がん罹患率、死亡率の減少効果が持続するエビデンスがある。
- 一度全大腸内視鏡検査を受けることで、大腸内の状態から、各個人の大腸がんの罹患しやすさが分かる。罹患しやすさによって、その後の検診プランは主治医により管理され、大腸がん罹患が減る。

4.対象者

55～59 歳の市民(ただし 50 歳以降全大腸内視鏡検査未受検の方)【R7 年度 1,000 人】

※がんを強く疑うような症状(血便、貧血、体重減少、便通の急激な変化等)がある方は、保険診療対応となる場合がある。

5.検査費用

無 料

6.受検の流れ



問診申込開始9月24日 ⇒ 問診開始10月1日

※9月24日実施医療機関一覧(71 機関)市 HP 公開

※問診と検査は原則別日

※本事業の対象でない方にも、大腸がん検診(便潜血検査)をはじめとした熊本市の5がん検診の利用を促進していく。